

五泉地域衛生施設組合中間処理施設

クリーンセンターあがのがわ

3Rに取り組もう！

Reduce リデュース
使う資源やごみの量を減らす

できるだけ、ごみを出さない工夫をしよう！

レジ袋の代わりにマイバック、
ペットボトルの代わりにマイボトル。
詰め替え用商品や包装の簡易な商品を選んだり、
毎日の工夫でごみを減らすことができます。



食材は使いきり、食事は食べきろう

外出先での料理の食べ残しゼロ、
少しの工夫で食材の使い切りなど
今すぐできることがあります。



Reuse リユース
繰り返し使う

モノは大切に、
できるだけ最後まで使いきろう

モノを買うときは、本当に必要かよく考えて、
好みにあった商品を購入し、
長く大切に使うようにしましょう。
安くていいものは
結局ごみになってしまいます。



Recycle リサイクル
資源として再利用する

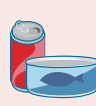
ごみは正しく
分別しよう

ごみを正しく分別すると、より多くの資源をリサイクルできます。
当施設では、びん類、かん類、古着、古紙類、ペットボトル、プラスチック類、
容器包装プラスチック（プラマークごみ）をリサイクルしています。

びん類



かん類



古着



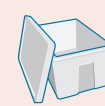
古紙類



ペットボトル



プラスチック類



容器包装プラスチック
(プラマークごみ)



食品ロスをなくそう！

食べ残し、売れ残りや期限が近いなど様々な理由で、食べられるのに捨てられてしまう食品を「食品ロス」と呼びます。
日本の食品ロス量は、年間472万トン※、これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料支援量（2022年で年間480万トン）とほぼ同等に相当します。大切な食べものは必要な分だけ買って無駄なく食べきりましょう！

※農林水産省及び環境省「令和4年度推計」より

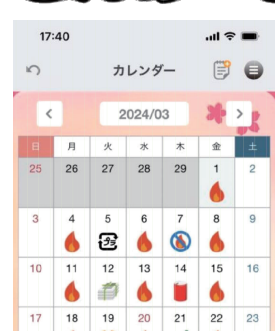
もったいない！
食べられたのに



日本の食品ロスの半分近くは家庭から発生しています！

ごみ分別促進アプリ

さんあ〜る[®]を活用しよう！



住んでいる地区を登録することで、
ごみ収集カレンダーや
ごみ出し通知機能が利用できます。
また、ごみ分別検索も可能です。



App Store
からダウンロード



GET IT ON
Google Play

クリーンセンターあがのがわ



〒959-1600

新潟県五泉市清瀬 84 番地 2

電話番号：0250-43-3852



アクセス：安田 IC より、車で5分

JR 五泉駅より、車で11分

事業主体：五泉地域衛生施設組合

設計監理・施工監理：株式会社エイト日本技術開発

設計・施工：荏原・大原鉄工所・

横山建設・坂詰組・

山隆リコム特定建設工事共同企業体

運営：株式会社ごせん E サービス

環境負荷を軽減した、安心・安全な施設

はじめに

令和7年（2025年）4月に五泉地域衛生施設組合中間処理施設「クリーンセンターあがのがわ」が稼働しました。

本施設は、1日の処理能力が122トンのエネルギー回収型廃棄物処理施設と11トンのマテリアルリサイクル推進施設で構成されています。

地域（五泉市・阿賀野市・阿賀町）から排出されるごみを安全かつ安定的に処理し、エネルギー回収型廃棄物処理施設では、ごみを燃やす際に発生する熱エネルギーを有効利用して、効率的な発電を行います。マテリアルリサイクル推進施設では、容器包装プラスチックのリサイクルラインを加え、リサイクル率の向上に努めます。

これまで以上に環境負荷の軽減を図り、カーボンニュートラルの実現を目指してまいります。

施設の概要

所在地：新潟県五泉市清瀬84番地2

敷地面積：27,540.13m²

建築面積：6,365.42m²

延床面積：11,923.87m²

煙突高さ：59.0m

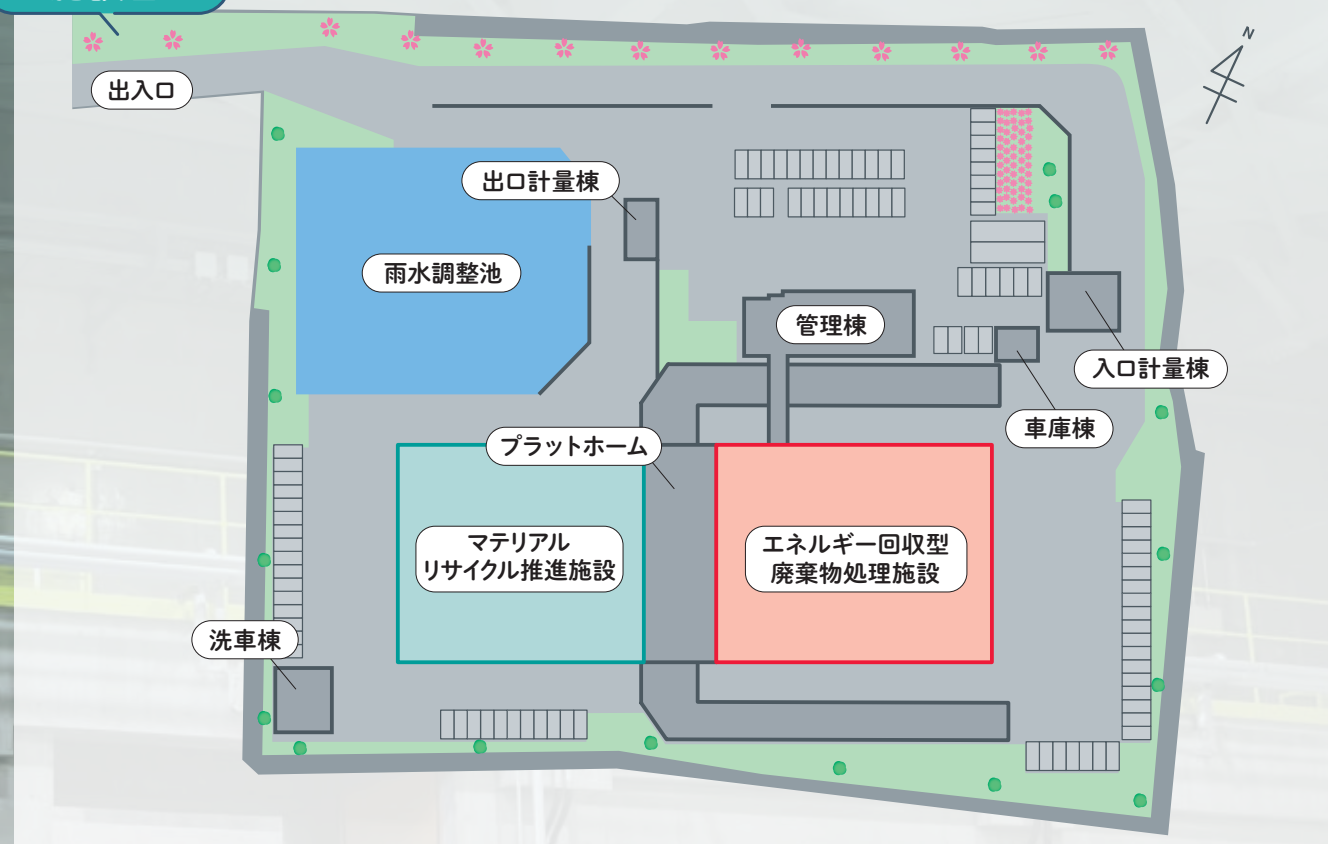
処理能力：エネルギー回収型廃棄物処理施設 122t/日（61t/日×2炉）
マテリアルリサイクル推進施設 11t/日

事業方式：DBO（公設民営）方式

設計・建設期間：2021年5月28日～2025年3月31日

運営期間：2025年4月1日～2045年3月31日

施設図



当施設の排ガス基準値

大気汚染物質	単位	自主基準値	法令等規制値
ばいじん	g/m ³ N	0.01	0.08
塩化水素	ppm	50	430
硫黄酸化物	ppm	30	約1,750
窒素酸化物	ppm	100	250
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.1	0.1
一酸化炭素	ppm	30	30
水銀	μg/m ³ N	30	30

※各値、酸素濃度12%換算値とする。但し、一酸化炭素は4時間平均値とする。

施設のコンセプト

① 安心・安全で安定した施設

ごみ質・ごみ量の変動に柔軟に対応でき、災害時も含めトラブルや事故のない施設とします。

② 環境に配慮した施設

環境基準を遵守し、環境負荷を低減して周辺環境との共存を図ります。

③ エネルギーと資源の有効活用に配慮した施設

熱エネルギーを発電に有効利用し、資源化量を最大化して最終処分量を低減します。

④ 地域に密着した施設

周辺と調和した景観デザインとし、地域住民に親しまれる施設運営を行います。

⑤ 経済性に優れた施設

建設から運営のすべての事業期間を通して、地域経済へ貢献します。



エネルギー回収型廃棄物処理施設の 処理フロー

施設概要

燃やすごみは、ごみ計量機で重さを量った後、プラットホームに入り、ごみピットに貯められます。ごみピットのごみはごみクレーンで焼却炉に送り、焼却します。焼却炉から出た高温の排ガスは廃熱ボイラへ送られます。廃熱ボイラの中には水が入っている配管(水管)が張り巡らされており、排ガスの熱を利用して蒸気を作ります。廃熱ボイラで熱エネルギーを回収した排ガスは減温塔で排ガス処理に適した温度に調整します。集じん装置で有害物質を除去し、排ガスの自主規制値以下で、煙突より排出します。

1 プラットホーム

ごみ収集車は計量機で重さを量ってからプラットホームに入り、ごみピットにごみを投入します。



2 ごみピット

ごみは一旦ごみピットに貯留し、ごみクレーンで攪拌を行い均質化した後、ごみ投入ホッパから焼却炉へ送ります。



3 焼却炉

様々なごみ質に対応して火格子のごみ送り速度と燃焼用空気の吸込み量を調節することで850℃以上の高温で焼却を行い、ダイオキシン類の発生を抑えます。



4 廃熱ボイラ

焼却炉より送られてきた排ガスの熱を利用して蒸気を作ります。この蒸気により、電気が作られます。



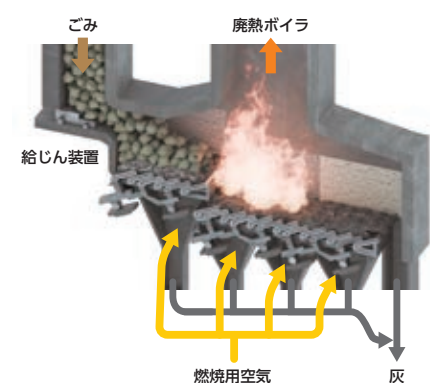
5 集じん装置

集じん装置内部に設置されたろ布(フィルター)が排ガスの中に含まれる有害物質を取り除き、クリーンにします。



ストーカ式焼却炉図解

焼却炉はストーカ式と呼ばれるもので、火格子を炉内に敷きつめ、前後に動かす焼却方式です。ごみは火格子の上を移動しながら1時間程度かけて完全燃焼され、灰になります。焼却炉の処理能力は1基1日61トンで、2基あり、1日122トンを焼却処理できます。



設備概要

受入供給設備	ピットアンドクレーン方式
燃焼設備	ストーカ方式
燃焼ガス冷却設備	廃熱ボイラ方式
排ガス処理設備	乾式排ガス処理方式(ろ過式集じん、消石灰・活性炭吹込み)、無触媒脱硝
通風設備	平衡通風方式
余熱利用設備	蒸気タービン発電機(最大出力2,280kW)
灰処理設備	焼却灰:ピットアンドクレーン方式 飛灰:薬剤処理方式・ピットアンドクレーン方式

- ごみの流れ
- 排ガスの流れ
- 空気の流れ
- 灰・飛灰の流れ
- 蒸気の流れ
- 水の流れ
- 薬剤の流れ
- 電気の流れ

6 蒸気タービン発電機

廃熱ボイラで作った蒸気を利用して、蒸気タービンを回し、最大2,280kWの電力を発生します。作られた電気は施設内の電力を賄うとともに余剰電力は売電します。

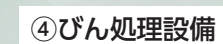
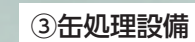
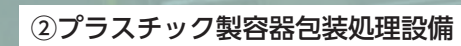


7 中央制御室

施設全体の運転状況を監視・制御します。各設備はコンピュータにより自動運転されています。



①不燃ごみ・粗大ごみ処理設備



- ①不燃ごみ、粗大ごみは目視により危険な処理不適物を除去したのちに破砕機によって細かく破砕され、磁選機やアルミ選別機によって鉄とアルミとその他に選別されます。
- ②プラスチック製容器包装は破袋し、危険物等を人手により除去し圧縮します。
- ③缶は破袋・除袋し、異物を人手により除去し、その後磁選機とアルミ選別機によりスチール缶とアルミ缶に選別し圧縮します。
- ④びんは人手により色別に選別します。

これら選別回収された物は貴重な資源となります。

2 中央制御室

プラント全体の運転状況を監視・管理し、安全に運転操作を行っています。



4 高速回轉破碎機

粗破砕物搬送コンベヤで運ばれた粗破砕物を、高速で回転する強力なハンマーにより、破砕物選別機で選別するのに適した大きさに粉砕します。



設備概要

粗破碎機、高速回転破碎機
破碎物磁選機、破碎物選別機、破碎アルミ選別機

破袋機、選別機、壓縮梱包機

缶処理設備 破袋機、除袋機、スチール缶磁選機、アルミ缶選別機
スチール缶・アルミ缶プレス機

びん処理設備 手選別コンベヤ